

第6章 市民・事業者・行政の参加と協働

第1節 環境教育の推進

1 背景

今日の環境問題は、ゴミ処理などの身近な問題から、地球温暖化やオゾン層の破壊などの地球規模の問題まで複雑・多様化しているのが現状です。この環境問題に対処するには、市民・事業者・行政が互いに連携・協力し、一人ひとりがライフスタイルと事業活動のあり方を見直しながら、環境にやさしい取組を自発的に勧めていくことが重要です。そのために本市では、人間と環境の関わりや環境問題についての理解と認識を深め、実践活動につなげてもらうための環境教育・環境学習事業の実施や環境学習拠点の整備、市民・環境NGO・事業者の自発的な活動の促進やその支援に取り組んでいます。

2 これまでの取組と成果

(1) 環境ミュージアム

「環境」の創造をまちづくりの目標に掲げる本市に、市民のための本格的な環境学習・活動交流の総合拠点となる「北九州市環境ミュージアム」を平成14年4月6日に八幡東区東田に開設しました。

鉄筋コンクリート造・鉄骨造の2階建て、敷地面積4,100m²、建築面積1,598m²、延べ面積2,061m²で、展示コーナーでは、北九州市の公害克服の歴史やさまざまな地球環境問題、それを防止するための環境技術について詳しく紹介しています。情報ライブラリには、書籍約3,400冊・ビデオ約260本などを揃え、パネルや実験器具などとともに貸し出しも行っており、学校の授業など各種の環境教育事業に活用されています。

平成17年度の利用者数は、113,229人でした。

利用者数

種別	個人利用(有料)		団体利用(有料)		無料	情報ライブラリ	合計(人)
	大人	子供	大人	子供			
人数	6,108	2,398	2,722	12,486	31,046	49,159	103,919

(2) 環境ボランティアの育成

環境教育の拠点施設である環境ミュージアムにおいて、市民からボランティアを募集し、環境に関する知識や環境学習の指導者としての技能取得のための研修を実施しました。

また、環境ボランティア自らの企画で環境学習プログラムを作成・実施し、小学校や市民センター等に出張してプログラムの提供を行う等、北九州市域全体で、市民の環境保全の意識を高め、環境学習・活動を推進する役割を担う市民環境リーダーの育成が進んでいます。

よび環境ビジネスのリーダーを育成することを目的としています。

3 環境学習サポーターの育成

環境学習サポーターとは、市民の環境意識を高め、環境学習・環境活動の活性化を図るために、環境ミュージアムを拠点とする館内外の市全域で、環境学習や環境活動を行う市民ボランティアの事です。環境に関する知識や環境学習の指導者としての技能取得のための研修を毎月実施しています。

これまで、市民の環境問題意識向上の手助けとなる環境科学実験やエコ工作、地球温暖化ビンゴ、環境クイズ、エコクッキングなど環境学習サポーター自らの企画で環境プログラムを作成・実施し、小学校や市民センター等に出張してプログラムの提供を行う等、北九州市域全体で、市民の環境保全の意識を高め、環境学習・活動を推進する役割を担う市民環境リーダーとして活動しています。

4 自然環境サポーターの育成

平成17年9月に「北九州市自然環境保全基本計画（以下計画）」を策定し、計画を推進するため自然分野での様々な取組を進めているところですが、その取組の一つとして、自然環境に対する正しい知識や、自然との上手なつきあい方などの習得を目指した市民応援団（自然環境サポーター）の育成を行うため、北九州市自然環境サポーター養成講座を実施しています。

平成17年度実施の第1期養成講座では、56名の方々が同講座を修了し、現在、自然のフィールドで様々な活動をしています。

平成17年度実施の北九州市自然環境サポーター養成講座は、全9回以下のような内容で実施されました。

第1回	講義「北九州市の自然の概要と生物多様性の保全について」
第2回	講義「北九州の植物相と平尾台の自然について」
第3回	フィールドワーク「平尾台の自然観察」
第4回	講義「森を見る目が深くなるコツ」
第5回	フィールドワーク「山田緑地の森林観察」
第6回	市民フォーラム「外来生物が何故問題なのか？」
第7回	フィールドワーク「瀬板の森の鳥類観察」
第8回	フィールドワーク「里山管理体験(竹林保全)」
第9回	講義「里山の重要性と管理について」

5 環境活動に関する各種表彰

(1) 背景

環境行政を円滑に進め、循環型社会を実現するためには、市民や事業者の理解と協力だけでなく、積極的な取組が必要不可欠です。

そこで、環境事業に協力し、積極的に活動に取り組んでいる市民・団体・事業者に対し、その活動・功績に対し、各種の表彰（感謝状贈呈）を行っています。

(2) これまでの取組と成果

<p>○ 第3回北九州市環境賞 国内外を問わず、環境分野において卓越したリーダーシップを発揮しており、かつ環境分野で強い影響力を有する団体、個人を表彰。 平成17年度:大賞 2名(谷 伍平氏、橋本 道夫氏) 奨励賞 3名(NPOアサザ基金、中神 司氏、北九州高校魚部)</p>
<p>○ 環境衛生優良地区(市長表彰状) 5年以上にわたり、ねずみ、衛生害虫の防除、廃棄物の処理及び清掃等の生活環境の改善を積極的に推進している地区を表彰。 平成17年度:5地区</p>
<p>○ 環境衛生地区組織育成功労者(市長感謝状) 5年以上にわたり、環境衛生向上のため実践活動を献身的に指導している個人を表彰。 平成17年度:12名</p>
<p>○ 北九州市まち美化協力功労者(市長感謝状) 5年以上にわたり、地域におけるまち美化意識の高揚や清掃活動など、環境事業に積極的に協力し、美しいまちづくりに顕著な成果を上げている個人・団体を表彰。 平成17年度:個人10名、11団体</p>
<p>○「校区まち美化レポート」表彰(市長感謝状) 小・中・養護学校におけるまち美化活動について広く活動例を募り、顕著な取り組みを行っている学校を表彰。 平成17年度:12校</p>
<p>○ 北九州市地域環境功労者(環境局長感謝状) 道路、歩道、河川等の清掃や地域の公園、ごみステーションの美観保持など、清潔で美しいまちづくりの推進に貢献した個人・団体を表彰。 平成17年度:個人10名、2団体</p>
<p>○ 環境家計簿コンテスト 地球温暖化防止を目的として、家庭から排出される二酸化炭素削減に向けた取組の内容が優秀な個人、団体を表彰。 平成17年度:達人賞1名、家族みんなで地球を大切にしたら賞4名他、28名1団体を表彰。</p>
<p>○ エコドライブコンテスト北九州地区大会表彰 大気汚染防止推進月間の事業として、環境省と独立行政法人環境再生保全機構が主催するものであり、北九州市内から応募のあった事業所について、地区大会として優良事業所を表彰。 平成17年度:最優秀賞1団体、商工会議所会頭賞1団体、環境局長賞1団体、優良賞7団体</p>
<p>○ 北九州市ごみ資源化・減量化優良事業所・団体 ごみ資源化・減量化に積極的に取り組んでいる事業所・団体に感謝状を贈呈。</p>
<p>○ 集団資源回収優良団体 集団資源回収に取り組んでおり、回収実績等が優秀であった団体を各区ごとに表彰。</p>
<p>○ 産業廃棄物優良処理業者 産業廃棄物処理業の許可業者を対象に優良処理業者を選び表彰。</p>

(3) 課題と今後の取組

今後も引き続き表彰制度を継続し、市民や事業者の環境への取組を支援していきます。なお、ごみの減量やリサイクルの取り組みが全市的な市民運動に盛り上がっていくように、積極的に取り組んでいる地域、団体、事業者を幅広く表彰する制度を創設することとしています。

第3節 パートナースhipによる環境保全活動 ●●●●●●●●●●

1 北九州エコライフステージ

(1) 背景

平成13年に開催した北九州博覧祭2001では、ゼロエミッション型社会に向けたモデル事業として、環境に配慮した会場づくりや環境に関する最新技術の展示など先進的な取組を行い、本市の環境未来都市づくりの方向性を広く内外に示しました。また、博覧祭の企画や運営において、多数の環境ボランティアや市民団体が主体的な取組を行うことを通じて、「北九州市の環境は市民みんなで築き上げていく」という市民意識と一体感が育まれました。

北九州エコライフステージは、こうした博覧祭における成果を継承し、「世界の環境首都」を目指した取組へと発展させるため、毎年市民団体や事業者などで構成する実行委員会を中心にし、エコライフの浸透を目指し様々な環境活動に取り組むものです。

エコライフステージでは、日頃から環境活動を行う市民団体などの活動発表や市民が環境活動を実践するきっかけづくりの場として、市民主体で企画・実施する事業を中心にした環境関連行事を市内各所で開催しています。

(2) 平成17年度の主な行事内容

平成17年度は、10月1日から11月30日の2ヶ月間、「世界の環境首都を目指して～さあ環境首都をはじめよう！～」をテーマに、多くの市民が参画し、54行事を実施しました。その主な行事は次のとおりです。

ア エコスタイルタウン

開催日：平成17年10月9日（土）・10日（日）

会場：北九州市役所横広場

内容：環境活動に取り組む団体による有機野菜や食のコーナー、環境商品の展示・販売、リサイクル工作教室など、日常生活に密着した環境にやさしいライフスタイルを提案する出展を行い、来場者に体験してもらいました。また、マスメディアの参画による音楽やトークショーなどのステージイベントを通して、「エコなライフスタイルはおしゃれでカッコいい。」をPRしました。

さらに、バイオマスプラスチックやリターナブル食器、掃除ロボット、環境パスポート（カンパス）などの社会実験を行いました。

イ ワーキンググループ

開催日：年間を通じて

会場：市内一円

内容：身近な環境活動を行う6ワーキンググループを結成し、その団体に助成を行い、エコスタイルタウンで発表することで、市民に身近なエコスタイルを提案することができました。

ウ 地域・テーマ別行事

開催日：10月1日（土）～11月30日（水）

会場：市内一円

内容：市民団体、企業、学校等の様々な環境活動を行っている団体を紹介することで、市民団体・企業間の相互交流による環境活動の拡大、ネットワークの広がりが生まれました。

エ 市民・環境フォーラム

開催日：平成18年2月19日（日）

会場：若松市民会館

内容：ノーベル平和賞を受賞し、「もったいない」運動を進めているケニアの副環境相ワンガリ・マータイさんを招聘し、「北九州市民・環境フォーラム 世界の環境首都を目指してー市民の力と協働」を開催しました。

(3) 成果

- ・ エコライフステージに、参加者が年々増加しており、平成17年度は31万人と過去最多になるなど市民に環境の環が広がっていることを実感できました。
- ・ エコスタイルタウンでは、52団体、105,800人の市民が参加し市民団体・企業・学校等との様々な交流が行われ、環境活動の拡大につながるきっかけになりました。また、エコライフ宣言など小さな子どもからお年寄りまで気軽に参加でき、普段は意識してなかったような何気ない日常の活動でも、環境に関わりがあるということを再認識するよい機会となりました。普段個別に活動している団体が一堂に集まってイベントに参加することで一体感が生まれ、来場者も出展者も共に楽しめるイベントとなりました。さらに、学生をはじめとしたスタッフがゴミ拾いを行い、イベントでの美化活動を徹底できました。
- ・ エコライフステージへの協賛が28企業・団体より寄せられ、環境市民の活動を地元企業が支える仕組みづくりが本格的に始まりました。
- ・ 若者のまちづくりへのかかわり方として、北九州近郊13大学の大学祭実行委員会メンバー70名やホームページを見た専門学校生が、エコスタイルタウン運営スタッフとして積極的に参加しました。
- ・ 環境への関心のきっかけづくりとして、マスメディアの積極的な参画により、エコロジー音楽ライブや著名人によるライフスタイルトークなどを開催し、子どもや若者層の参加の掘り起こしにつながりました。
- ・ 市民・環境フォーラムでは、マータイさんは「環境のことは北九州市に聞け」と世界中に伝えることを約束するなど北九州市の取り組みを高く評価し、また、マータイさんの「今、自分にできることを精一杯やること」という言葉は、市民の環境意識の高まりに大きく寄与することとなりました。

	事業名	開催日	会場	主催
シンボル事業	エコスタイルタウン	10/9(日)10(月・祝)	北九州市役所横広場	エコライフステージ実行委員会
ワーキング	北九州グリーンマップ	7/9(土)～10/10(月・祝)	北九州市環境ミュージアム、東田エコクブ、ゼンリン地図の資料館、エコスタイルタウン会場	北九州マップメーカー／NPO法人里山を考える会
	自酒づくりプロジェクト	6/5(土)～2006.3	重住農園(若松区大字竹並)他	のうみ農園、無法松酒造、BLOW NOTE、RKB毎日放送 中西一清スタミナラジオチーム、料理研究家桜井恵子
	あなたはエライ!!プロジェクト	2005・8～12/22(木)	エコスタイルタウン会場、門司港レトロ	アヴァンティ北九州、おいらの街、ナッセ、ドンナ・マンマン、リビング北九州、コンセプトビディア、泉香苗
	カンパス(北九州市民環境パスポート)	10/9(日)・10(月・祝)	エコスタイルタウン会場	北九州市民環境パスポートセンター
	素敵! チャレンジ! マイバッグ	10/9(日)・10(月・祝)	エコスタイルタウン会場	ワーキンググループ「エコショッピング」
	デザインを考えるための講評型展覧会「FantasyとしてのEco」	11/22(日)～27(日)	d3「ディーキューヴギャラリー」、CafeCream	のりしる
地域・テーマ別行事	第10回金山川アートギャラリー	9/26(日)～10/22(土)	金山川河岸	金山川アートギャラリー実行委員会
	市民いっせいまち美化の日(清潔なまちづくり週間)	10/1(土)～7(金)	市内全域	北九州市、(社)北九州市衛生総連合会
	ほりかわスカベンジャー堀川くるくる隊!	10/1(土)～16(月)	八幡西区、中間市、水巻町の堀川流域及び八幡西区桶橋芝谷橋下	堀川まちおこし実行委員会
	堀川まちおこし事業 風車プロジェクト	10/1(土)～10(月・祝)	八幡西区、折尾、中間、桶橋、水巻町(八幡西区を中心とした地域)	若松松枝会
	イオン若松ショッピングセンターで「地球にやさしいことを考えよう!」	10/1(土)～30(日)	イオン若松ショッピングセンター(若松区)	イオン九州(株) イオン若松ショッピングセンター
	第2回北九州自然フォトコンテスト～世界の環境首都をめざして～	10/1(土)～11/30(水)		北九州市環境局
	堀川の水生生物・水生植物の調査	11/4(金)	新々堀川(中間唐戸から折尾定格橋の間の5カ所(中間市中間区2丁目から八幡西区大膳1丁目の間))	堀川再生の会・五平太
	有用微生物泥ダゴ5万個投入大作戦	10/14(金)～12/8(木)(うち11日間)	新々堀川(八幡西区大膳1丁目から本城東4丁目間)	堀川再生の会・五平太
	第17回牧羊山みんなでワッショイ川まつり	10/1(土)	牧羊山市民センター駐車場と周辺(戸畑区新川町、天籟寺川沿道)	牧羊山まちづくり協議会
	天籟寺川の清掃	10/16(日)	竹の橋(沖谷)～昭和橋(新川町)間の、天籟寺川とその沿道	みんなで天籟寺川を美しくする会
	若松コスモスフェスタ～フラワーボランティア感謝祭～	10/2(日)	若松コスモス街道向洋橋側(若松区向洋町)	若松区役所
	堀川いっせいまち美化、ほりかわスカベンジャー	10/2(日)	堀川流域全体と笹尾川の一部	おりお堀川を愛する会、堀川まちおこし実行委員会
	北九州学術研究都市 第5回産学連携フェア	10/5(水)～7(金)	北九州学術研究都市(若松区ひびきの)	北九州学術研究都市産学連携フェア実行委員会、(財)北九州産業学術推進機構
	第2回平尾台フォルクローレ祭	10/9(日)	平尾台自然の郷 高原音楽堂	平尾台自然の郷
	ふれあいエコフェスタ2005	10/10(月・祝)	(株)西港自動車学校	(株)西港自動車学校
	エコテクノ2005	10/19(水)～21(金)	西日本総合展示場新館	北九州市、(財)西日本産業貿易コンベンション協会
	福岡水素エネルギー社会近未来展2005(燃料電池・水素技術展&セミナー)	10/19(水)～21(金)	西日本総合展示場新館	福岡水素エネルギー戦略会議、経済産業省九州経済産業局、福岡県、北九州市、福岡市、国立大学法人九州大学、(財)西日本産業貿易コンベンション協会
	第42回北九州市環境衛生大会	10/12(水)	北九州芸術劇場大ホール	北九州市(社)北九州市衛生総連合会
	平成17年度北九州市食生活改善大会	10/13(木)	門司市民会館 大ホール	北九州市
	キッズ・ファクトリー	毎月第三土曜日	ひらおだい自然塾の家	NPO法人 ひらおだい自然塾
	北九州市エコライフプラザ・ワークショップ	10/16(日)～11/27(日)	北九州市エコライフプラザ	NPO法人 里山を考える会
	第29回北九州市都市緑化祭	10/16(日)	響灘緑地 グリーンパーク	北九州市・北九州市都市整備公社
	里山で遊ぼう(おいしい農体験)	10/2(日)・11/13(日)	長野緑地公園	NPO法人 里山を考える会
	高原野菜市	10/29(土)・30(日)	平尾台自然の郷 自然の郷ショップ	平尾台自然の郷
	第3回北九州市環境賞授賞式及び子ども環境首都フォーラム	10/29(土)	北九州国際会議場 メインホール	北九州市環境局環境政策部環境首都推進室
	パネル展示「海海湾を身近に感じよう」	10/29(土)～11/6(日)	北九州市立水環境館	北九州市環境科学研究所、北九州市港湾空港局
	森のがっこう'05～日本人の心のふるさと「里山」を守ろう～	10/30(日)	八幡西区畑野水池周辺の竹林	遠賀川・今川流域森林林業活性化センター
	青少年のための国際協力人材育成セミナー～国際協力の「夢」いっしょに創りませんか?～	10/30(日)	北九州市国際交流センター2F国際会議室	(財)北九州国際技術協力協会、北九州グリーンユース
	親子エコチャレンジ	11/5(土)・26(土)	エフコープ大里店・エフコープ折尾店	エフコープ生活協同組合
	パラグライダー体験教室	11/3(木・祝)	平尾台自然の郷広場ゾーンキャンプ場草のり丘	平尾台自然の郷
	エネルギー in 未来北九州 2005	11/3(木・祝)	北九州市立赤崎小学校 白島展示館	自然エネルギー研究会
	フリマエキスポ2005秋	11/5(土)・6(日)	西日本総合展示場 新館	(財)西日本産業貿易コンベンション協会
	第16回アジア女性会議～北九州	11/5(土)・6(日)	北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」	(財)アジア女性交流・研究フォーラム
	貫山・平尾台トレッキングワールド	11/5(土)	貫山・平尾台	貫山・平尾台トレッキングワールド連絡会議
	北九州市長杯第10回紫川・市民ハゼ釣り大会	11/6(日)	紫川(貫船橋～常盤橋一帯)	北九州市、スポーツニッポン新聞社
	2005ファンタスティックイルミネーション in 小倉	11/11(金)～12/25(日)	小倉都心部一帯	イルミネーション実行委員会
	小倉ローレルキ列車	11/12(土)	北九州モノレール(小倉駅～企救丘駅を往復)	小倉ローレルキ列車実行委員会
	ねんりんピックふくおか2005北九州市開催交流大会	11/12(土)～15(火)	総合体育館など市内6会場	ねんりんピックふくおか2005北九州市実行委員会
	「環境の超微量分析にチャレンジしよう」	11/12(土)	北九州市環境科学研究所	北九州市環境科学研究所、福岡大学
	第4回いきいき健康ふくおか21フェスタにおける「健康づくりのための食事(展示と試食)」	11/12(土)～15(火)	西日本総合展示場	北九州市食生活改善推進員協議会
	「音の探検隊北九州に行く」	11/13(日)	山田緑地	北九州市環境局環境監視部環境保全課
	元氣発見! 小倉北あるきing～みんなで歩こう秋の1日～	11/13(日)	三萩野庭球場	小倉北区すこやかライフ推進協議会
	消費者フェスティバル	11/19(土)・20(日)	西日本総合展示場新館(展示場A)	北九州市立消費生活センター
	平成17年度北九州市動物マナーアップパレード	11/23(水・祝)	三萩野公園～勝山公園	北九州市動物愛護推進協議会、北九州市
	北九州市民カレッジ「見て納得! 北九州の優れた環境財産」～環境首都北九州～	11/15(火)～12/20(火)	北九州市立生涯学習総合センター他	北九州市教育委員会、生涯学習総合センター
	ホテルの人工飼育...ふるさとの堀川に螢を...	2004年2月～2005年12月	三菱化学黒崎事業所	堀川再生の会・五平太
	環境にやさしい料理教室	10/22(土)	東郷市民センター、平野市民センター	北九州市保健福祉局

(4) 課題と今後の取組

● 新たなエコライフステージの仕組づくり

・ 推進体制の充実

市民の草の根的参画の拡大を図るために、実行チームの強化など新たな推進体制について引き続き検討します。

・ 日頃からの環境情報の共有

環境情報ネットワークを構築・運営し、年間を通じた市民団体や企業の環境活動の相互交流を促します。

・ 身近な具体的なテーマの設定

誰もが気軽に参加できる、身近で具体的なテーマを設定し、それを柱に全市的に取り組む事ができる事業を検討します。

2 北九州市民環境パスポート事業

(1) 背景

北九州市では、環境の世紀といわれる 21 世紀におけるまちづくりのあり方を示すべく、市政の機軸として「環境」を捉えた環境首都づくりに取り組んでいます。

この取り組みは、市民、企業、NPO 等のあらゆる主体が、いかに主体的にこの取り組みに参加し、全市的なムーブメントを起こすことができるかが鍵を握っています。

一方で、従来の行政主体の啓発等の施策では限界があり、あらゆる主体がひとつにまとまって、誰でも楽しく参加でき、それが相乗効果をもたらす仕組みが必要です。

このため、市民参加型の環境首都実現のための新たな仕組みとして、日常の環境行動や活動に参加するとポイントがもらえ、そのポイントで買い物や割引などのサービスが受けられる、楽しくお得に環境によいことをしてもらおう仕組み「北九州市民環境パスポート事業」の検討を進めています。

(2) これまでの取組と成果

平成 16 年 2 月、国の「地域再生プログラム」の中に総務省の「地域通貨モデルシステムの導入支援」が盛り込まれました。

そこで、「北九州市民環境パスポート事業」が環境を機軸とした地域活性に資するものとの考えの下、地域再生計画として申請を行い、平成 16 年 6 月に認定を受けました。

この認定によって、総務省の地域通貨モデル事業として国の支援のもとに、全国都市再生の環境共生まちづくりに選定されている八幡東区東田地区を中心に実証実験を行いました。

また、平成 17 年 10 月には、「北九州エコライフステージ 2005 エコスタイルタウン」において 2 日間のモニター実験を行いました。

〈実証実験の概要〉

実験期間	平成16年12月1日から 平成17年1月31日(ポイント使用は2月28日まで)
参加者数	1127名
プログラム数	のべ112件

(3) 今後の予定

平成 18 年 10 月を目途に市内の一部地域から事業を開始する予定にしており、その後、順次、対象地域の拡大を図っていきます。

3 八幡東田地区グリーンビレッジ構想

(1) 背景

ア 構想の策定

八幡東田地区は、平成 13 年に北九州博覧祭 2001 を開催した地区です。

博覧祭では、建築物等における環境技術の展示、ごみの分別・デポジット等の社会実験、グリーン購入などハード、ソフト両面から、21 世紀における環境への取組みのあり方についてさまざまな提示を行いました。

その成果を、博覧祭後の民間主体で進める街づくりに継承するため、地権者をはじめとした企業、NPO 等とともに検討を重ね、平成 15 年 3 月に基本的な方針を、平成 16 年 3 月に実施計画を策定しました。

イ 位置づけ

環境の世紀である 21 世紀のまちづくりのモデルとして、環境を機軸としたまちづくりに、官民の垣根を越えた協働体制により取り組んでいきます。

若松区響灘地区で進めている北九州エコタウン事業が産業に視点を置いたものであるのに対し、八幡東田地区グリーンビレッジ構想では、ここで住み、働き、遊び、学ぶ都市生活者の視点に立ち、生活者が「環境」の良さを実感し、自ら参画できる、まちづくりを目指すものです。

ウ 国による評価・支援

グリーンビレッジ構想は、国で、身の回りの生活の質の向上、地域経済・社会の活性化、民間投資の促進を目的に創設された「全国都市再生のための緊急措置」において、15 年 6 月、「環境共生まちづくり」のモデルとして全国 167 件の応募の中から、7 件のうちの 1 件に選定されました。民間の街づくりへの参画、取組み内容の総合性などが評価されたもので、まさに、本構想の実現を図ることが今後の街づくりにつながり、さらに、それが国の目指す方向性と一致したものと考えられます。

この選定により、国の補助等の優先的適用、規制緩和など、事業を進めるのに必要な財政面・制度面からの支援について、国と個別に相談することができるようになりました。

(2) これまでの取組と成果

ア 八幡東田グリーンビレッジ推進地域協議会の設置

構想の具体化に向け、様々な立場から議論を深め、今後のまちづくりに幅広い参画を得ていくため、平成 15 年 8 月、「八幡東田グリーンビレッジ推進地域協議会」を設置しました。学識経験者、事業実施主体となる市民団体や企業、総合的な事業推進を支援する立場の国・市の関

係機関で構成し、具体的な調査研究を進めるため、土地利用、交通、廃棄物、エネルギー、コミュニティの分野についての作業部会を設けています。

平成15年度に、基本的考え方、実施プロジェクトなどについての検討を行い、実施計画をとりまとめました。

イ 実施計画の策定

協議会による検討を踏まえ、平成16年3月に、構想を具体化する実施計画をとりまとめました。

●基本的考え方

- 「生活系を中心とした環境共生実験都市」
- ・環境時代の新しい価値を提案するまち
 - ・持続するしゅみを備えたまち
 - ・つながりで豊かさを創出するまち
 - ・誰もが心地よいと感じるまち
 - ・様々な人々の参加協働でつくるまち
 - ・試行錯誤の蓄積で成長するまち

●計画方針

- ・環境共生コミュニティモデル
- ・循環する地域の仕組みづくり
- ・個性的な都市景観の形成
- ・感性が呼応する環境形成
- ・多彩な主体による協働
- ・情報を共有するコミュニケーション

●推進プログラム

カーシェアリングシステムの構築、都市エネルギー管理システムの構築など、方針に基づき、24の推進プログラムを掲げています。

プログラム名	概要
■共有価値の創造	
北九州/環境首都/パスポート事業	公共交通機関の利用、環境活動のポイント化等
サイクル特区の構築	専用道、シェアリング等による自転車利用促進
カーシェアリングシステムの構築	立地企業社有車等のシェアリング
バス、トラック等大型交通の効率活用	循環バス、物流ステーション等
エコドライブ支援プログラム	車両整備や運転によるCO2削減支援システム
アロハプロジェクト	夏期の省エネにアロハシャツの着用
ローカルルールづくり	暮らし、街並み、ビジネスに合意形成ルールを
■循環型エリア・マネジメント・システムの構築	
都市エネルギー管理システムの構築	複数の分散型エネルギーの効率的運用管理
廃棄物マネジメントシステムの構築	リサイクルネットワークの地域モデルづくり
バイオエタノール混合ガソリン利用促進	3%混合ガソリン利用の実証等
サステナブル計画の策定	市民参加による持続可能性への取組マネジメント
■街並み形成	
街並み形成軸と歩行者ネットワーク構築	歩行圏スケールのまちづくり、特色ある街並み等
東田グリーンビレッジ植林事業	緑化による景観、環境性能の向上、環境教育等
北九州オープン・エア・ミュージアム計画	アートによるシンボル空間づくり等
■快適な暮らしの創出	
微気候形成プロジェクト	樹木を空調装置と捉えた快適空間の整備
環境共生型住宅整備計画の策定	住宅の環境配慮、住宅による新たな環境の創出等
シビック・コンビニエンス・センターの設立	生活利便サービスの駅前地域への集約
安全・安心のネットワークづくり	公民連携による防災・防犯の実現等
■協働を促進する拠点づくり	
地球温暖化対策地域協議会の立ち上げ	地域の連携による温暖化対策への取組み促進
東田エコクラブを拠点としたパートナーシッププログラム	市民、NPO、企業の環境活動・交流、まちづくりの情報発信等の促進のための仕組みづくり
交流の場と環境教育の場の提供	市民農園を通じた周辺地区住民との交流等
サステナビリティレポートの市民評価システムの導入	指標等による定量的評価に、市民の声による定性的評価を加え、事業効果を測定する。
■取組の発信	
東田サステナビリティレポートの整備	持続可能性の指標整備、データ収集、効果測定
まちづくりPR	モデルとしてのまちづくりPR等

平成 16 年 3 月には市内 NPO が、環境活動やまちづくりの交流、情報発信の拠点として、「東田エコクラブ」を設置しました。平成 17 年 1 月には、1 台の車を複数の事業所で共同で利用することにより排ガス発生量及びエネルギー消費量の抑制等に寄与する「カーシェアリング事業」が開始され、また、同年 2 月には天然ガスを用いたコージェネ発電による地域エネルギー源の供給・活用を図る「東田コージェネ」が供用開始されました。

(3) 課題と今後の取組

上記事業全体の計画に基づき、今後とも、個別事業についての具体的な計画づくりを進め、可能なところから実施に移します。

今後、さらに民間企業、市民、NPO 等と一体となって、環境首都づくりを牽引し、環境まちづくりの全国のモデルとなるべき取組みを推進していきます。

4 グリーンコンシューマーの推進

(1) 背景

身近なごみの減量から温暖化防止など様々な環境問題に、関心が高まっています。これらの課題に取り組むためには、一人ひとりが日常生活で環境に配慮した行動をとっていく必要があります。欧米で始まった環境のことを考えて行動する消費者（グリーンコンシューマー）の育成を推進しています。

(2) これまでの取組と成果

事業名	取組内容	成果
大都市減量化・資源化共同キャンペーン	毎年10月に、政令指定都市がいっせいに、マイバッグ運動を実施。期間中は、公共施設等にポスターを掲示。また、北九州エコライフステージ2005において、マイバッグキャンペーンを実施。	開催期間： 平成17年10月9～10日
グリーンコンシューマー講座	グリーンコンシューマー育成の拠点であるエコライフプラザで、食育、ふろしきによるマイバッグ、環境にやさしいものづくり等の講座を開催。	開催回数：25回 参加者総数：459人
買物袋持参推進講座	消費生活センターにおいて、グリーンコンシューマーとしての行動や買物袋持参等の講座を開催。	開催回数：16回 参加者総数：977人

(3) 課題と今後の取組

平成 18 年 7 月から、家庭ごみの 20% 減を目標として、収集制度を見直すこととしています。そのためには、グリーンコンシューマーとしての市民だけでなく、事業者、行政が、それぞれの役割のもとで取り組む必要があります。そこで、3 者が一体となってノーレジ袋運動、過剰包装の自粛の全市展開、事業者表彰などの新たな事業に取り組む「グリーンコンシューマー推進委員会」を新設することとしています。

5 まち美化に関する啓発

(1) 背景

ごみのない清潔で美しいまちづくりを推進するため、市民やNPO、企業等と連携し、様々な啓発事業を実施しています。

(2) これまでの取組と成果

ア “クリーン北九州” まち美化キャンペーン

5月30日を「ごみゼロの日」として、この日の前後に清掃活動を行う運動は、昭和50年代に全国的に広まりました。

北九州市では、昭和58年に「ごみゼロの日のキャンペーン」を開始し、平成3年からは5月30日～6月30日を「“クリーン北九州” まち美化キャンペーン」として、市民・企業・行政が一体となってまち美化活動や啓発活動を行っています。

(ア) まち美化清掃

観光地や駅周辺など市内7ヶ所で環境センター主催によるまち美化清掃を実施しました。特に若松区岩屋海岸では、「ラブアース・クリーンアップ2005」として、市民やボランティア団体、企業、行政が協力して、地球環境美化活動を行いました。

また、期間中、地域団体やボランティア団体、企業等による身近な場所での清掃活動が行われました。

(イ) ポイ捨て防止の呼びかけ

マナーアップ啓発、ドライバー啓発、釣り人啓発、駅前街頭啓発で、ポイ捨て防止のチラシを配布しました。また、JRの主要駅及びモノレール全駅の啓発放送とごみ収集車両や環境パトロール車によるポイ捨て防止・ふん害防止の啓発PRを実施しました。

イ 「市民いっせいまち美化の日」

平成6年10月1日にまち美化条例が施行されたことから、平成7年から毎年、10月1日～7日までを「清潔なまちづくり週間」と定め、さらに、平成8年からは期間中の日曜日(10月の第一日曜日)を「市民いっせいまち美化の日」とし、市民総出で地域の道路、公園、河川、海浜等を清掃しています。こうした市民参加型の行事を継続実施していくことで、まち美化意識の高揚と定着を図っています。

また、平成16年10月3日(日)の「市民いっせいまち美化の日」には「まち美化でギネスに挑戦」を同時に開催し、一日に集まったごみ拾いボランティアの人数の世界記録を達成しました。(参加者数74,206人)

まち美化清掃

〈参加人数・収集量の推移〉

年 度	参加人数 (人)	収集量 (t)
平成13年	19,373	90.5
平成14年	20,301	50.6
平成15年	19,701	59.7
平成16年	19,139	48.7
平成17年	23,012	46.7

市民いっせいまち美化の日

〈参加人数、収集量の推移〉

実施日	参加人数 (人)	収集量 (t)
平成13年	67,549	169.4
平成14年	63,670	173.6
平成15年	63,670	195.1
平成16年	87,009	275.4
平成17年	87,670	175.6



ウ “クリーン北九州”百万市民運動推進協議会

第45回国民体育大会の福岡県開催を契機に平成元年に発足しました。

地域・学校・企業・ボランティアを代表する40団体で構成され、「5分間清掃」「ポイ捨て防止」「ごみの持ち帰り」の3つを運動目標に普及啓発活動を実施しています。

エ まち美化推進員

平成6年10月に施行された「北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例」（まち美化条例）に基づき、「まち美化推進員」を選任しています。

まち美化推進員は、市と市民のパイプ役を果たし、地域のまち美化活動を牽引する役割を担います。（平成18年3月31日現在121名）

オ まち美化促進区域

快適な生活環境の形成を図るうえで空き缶等の散乱を防止することが特に必要と認められる区域を、「まち美化促進区域」として指定しています。

まち美化促進区域では、地域において積極的に清掃活動が行われています。

- ・門司港レトロ地区・大里柳校区駅前周辺地区・小倉駅前地区・勝山公園地区
- ・朽網であい坂地区・若松南海岸エルナード地区・国際通り地区・帆柱自然公園
- ・黒崎地区・沖田地区・戸畑駅前地区 以上11ヶ所

カ ポイ捨て実態調査

路上の散乱ごみの実態を把握するため、JR小倉駅周辺と黒崎駅周辺で調査を行いました。

調査時期	平成17年11月		平成18年3月	
	個数	割合	個数	割合
たばこの吸殻	22,615	89.3%	22,906	85.4%
紙類	968	3.8%	1,115	4.2%
ビニール袋類	674	2.7%	1,818	6.8%
飲料容器類	1,081	4.2%	972	3.6%
合計	25,338	100.0%	26,811	100.0%

※調査期間：平成17年11月22日～11月26日の5日間

：平成18年3月2日～3月5日、7日の5日間

※個数はそれぞれ5日間（平日3日間と土曜、日曜、祝日のうち2日間）の合計値

キ まち美化ボランティア袋

道路・公園・河川等の公共の場所をボランティアで清掃する市民に「まち美化ボランティア袋」を配布し、活動の支援を行っています。

ク 生活環境クリーンサポート事業

地域団体やボランティア団体、NPO等が行う環境に関する自主的な活動に対し、環境センターが積極的かつきめ細かに支援、参加することで、これらの活動の高度化・拡大を図るとともに、団体等と行政とのパートナーシップ（新たなネットワーク）を形成し、清潔で美しいまちづくりを進めています。

ケ 北九州市環境衛生大会

永年にわたって環境・保健衛生活動に貢献された方を表彰するとともに、環境衛生に携わる

者が一堂に会し、お互いの連携を深め、地域の活動に活かしてもらうことを目的として、社団法人北九州市衛生総連合会との共催で実施しています。

(3) 課題と今後の取組

以上の様々な取り組みにより、「自分たちのまちは自分たちの手できれいにする」という市民の美化意識は高まっています。

今後は、誰もがまち美化活動へ気軽に参加し、環境美化について関心を抱くよう、PR・啓発活動を充実させ、市民全体のモラル・マナーの向上を目指します。

6 ごみ減量化・資源化に関する啓発

(1) 背景

地球環境の保全に配慮した循環型社会の構築を図るには、ごみの減量化・資源化を進めていくことが重要であり、市民ひとりひとりの意識の向上のために、各種の啓発活動を行っています。



(2) これまでの取組と成果

ア エコライフプラザ

資源循環型ライフスタイルの啓発、グリーンコンシューマーの育成拠点として、平成14年11月にエコライフプラザを開設しました。NPO法人に企画・運営を委託し、エコ商品の展示、販売、リユース品の販売、エコライフに関する情報の提供、毎日の生活に役立つ環境講座などを行っています。

開館日／年末年始（臨時休館あり）

開館時間／10時～20時



イ 施設見学

一般市民や小・中学生に廃棄物処理事業を正しく理解してもらうため、新門司工場、日明工場、皇后崎工場、日明・本城かんびん資源化センターの見学会を行っています。

ウ 環境トーク

「ごみの減量化・資源化」の市民への周知や環境保全行政に関する市民の声を聞くために、学校、公民館等で講演会・説明

見学者	平成12年度 見学者数	平成13年度 見学者数	平成14年度 見学者数	平成15年度 見学者数	平成16年度 見学者数	平成17年度 見学者数
一般市民	4,579人	3,712人	2,505人	1,538人	1,462人	1,566人
小・中学生	11,501人	10,362人	12,131人	11,915人	11,906人	12,924人
計	16,080人	14,074人	14,636人	13,453人	13,368人	14,490人

会を行いました。（平成16年度実績 29団体のべ1,280人）

エ 大都市減量化・資源化共同キャンペーン

ごみの減量化・資源化を訴えるため、大都市が共同で公共施設等でのポスターの掲出、市民へのペットボトルのリサイクル製品である買物袋の配布を行いました。

オ 「分別大事典」の作成・配布

正しいごみの分け方・出し方を広く市民に知ってもらうため、家庭ごみや資源化物の分け方・

出し方や粗大ごみ、引越ごみの申込み方法等を掲載したパンフレットを区役所等で配布しています。平成14年11月からは、主な内容をホームページに掲載しています。

カ 「かえるプレス」の発行

リサイクルに関する情報の提供や、環境局の事業を紹介するための情報紙を発行し、全世帯に配布しています。(発行回数/年2回)

キ あき缶プレスカーの運行

リサイクルに対する関心を高めてもらうために、小学校等にあき缶プレスカー「カンガルー号」を派遣し、プレス実演を行うとともに、回収した缶を資源化しています。(運行回数/52回)

ク 消費者フェスティバル開催

ごみの資源化・減量化に対する市民の意識の高揚を図り、正しい認識のもとに、環境に配慮した生活・行動を実践してもらうことを目的に開催しました。(主催：総務市民局)(参加人数/15,357名)

(3) 課題と今後の取組

市民ひとりひとりのごみ減量化・資源化に対する意識を高め、循環型社会を実現するために、今後も様々な啓発活動を行うとともに有効な啓発方法について検討します。

第4節 市民・事業者による取組の支援 ●●●●●●●●●●●●●●●●●●

1 環境保全活動を行う市民・市民団体への助成

(1) 背景

ごみの減量化・資源の有効活用に加え、地球環境に対する関心が高まっている現在、本市では市民がより取り組みやすくなるよう、また取組が励みになるような助成制度を設け、市民や地域団体の活動を支援しています。

(2) これまでの取組と成果

ア 集団資源回収団体奨励金制度

古紙リサイクルの促進のため、子供会などの地域の市民団体に対し、回収した古紙の回収量に応じて、奨励金を交付しています。

奨励金は回収方法により異なります。

- ┌ Aタイプ(広場やごみステーションを利用した回収方法)：古紙1kgあたり7円
- └ Bタイプ(回収業者が戸別回収を行う方法)：古紙1kgあたり5円

平成17年度登録団体数：1,351団体

古紙回収量：21,542トン

イ 家庭用生ごみコンポスト(たい肥)化容器設置助成制度

家庭用の生ごみコンポスト化容器を設置する市民に購入費の一部を助成(容器1セットあたり3,000円)しています。

平成 17 年度は、1,202 基の設置に対して助成しました。

ウ 家庭用電気式生ごみ処理機設置助成制度

家庭用電気式生ごみ処理機を設置する市民に購入費の一部を助成（消費税等を除く購入価格の 2 分の 1 で、限度額 20,000 円）しています。

平成 17 年度は、721 台の設置に対して助成しました。

(3) 課題と今後の取組

古紙回収は、家庭ごみ減量の最重要課題の一つと位置づけています。

市民が、古紙回収に取り組みやすいように、従来の町内会や子供会による集団資源回収だけでなく、まちづくり協議会による校区ぐるみの回収や市民センターの保管庫回収など多様な回収ルートの整備に取り組んでいます。

2 公害防止に取り組む事業者への融資、助成

(1) 北九州市公害防止資金融資制度

ア 背景

本市は、公害の発生を防止するとともに、公害に係る紛争解決の促進を図り、もって市民の生活環境の向上に資することを目的に、昭和 43 年、市内の中小企業者に対し公害防止のために必要な資金の融資を行い、かつ、融資を受けた者に対し利子補給金を交付する制度を創設しました。

イ これまでの取組と成果

制度創設当初から、市内の中小企業者が、公害を防止・除去するために必要な施設を改善・設置したり、公害に関する紛争解決のために事業所を移転する等の産業公害対策として融資を行ってきましたが、平成 10 年からは、自動車公害対策も視野に入れ、低公害車購入に対しても対象を広げて融資をしています。

融資制度が発足した昭和 43 年度からの融資実績は 300 件（29 億 8,910 万円）で内訳は右のとおりです。

資 格	1. 中小企業者で市内に工場・事業所を有し、引続き 6 ヶ月以上の営業実績があるもので、市税を滞納していないこと。 2. 公害が発生し、又は、発生のおそれがあるため、公害防止措置の必要があり、かつ、その措置の計画が適当と認められること。
限度額	1,000 万円(市長が特別に認めた場合 2,000 万円)
対 象	1. 公害防止施設及び工場移転等に必要土地建物 2. 低公害車
期 間	7 年以内(500 万円以下は 5 年以内)
利 率	年 1.9% (ただし、利子相当額を補給)平成 18 年 3 月 31 日現在
保 証	信用保証協会の保証を付する。(保証条件は協会の定めによる。)

ウ 課題と今後の取組

近年、事業者の公害防止についての意識の向上、住工分離による工場の集団移転、既存工場の公害防止設備設置が進んだことなどから、融資件数が減少してきていますが、公害に係る紛争が起きた場合の解決手段として、活用していきます。

(2) 北九州市環境改善事業施設等整備助成制度

ア 背景

本市では、市域における大気環境の改善を図るため、平成 7 年度から、独立行政法人環境再

生保全機構の助成制度を活用し、民間事業者が行う大気汚染の改善に資する事業に対して助成金を交付しています。

	件数	金額
騒音対策	161件	18億52万円
大気汚染対策	61件	6億3,444万円
水質汚濁対策	47件	3億6,754万円
悪臭対策	20件	1億2,575万円
その他	11件	6,085万円

イ これまでの取組みと成果

助成の対象となる事業は以下の4つです。

(ア) 低公害車普及事業

電気自動車、天然ガス自動車、ハイブリット自動車又は電動スクーター等の低公害車を購入・リース導入すること。(平成17年度制度廃止)

(イ) 最新規制適合車等代替促進事業

大型のディーゼル車を排出ガスのより少ない最新規制適合車等へと代替を行うこと。

(ウ) 大気浄化植樹事業

大気浄化能力を有する植栽の整備を行うこと。

(エ) 共同輸配送推進事業

自動車交通量の抑制に効果のある共同輸配送のための配送施設等の整備を行うこと。(平成17年度制度廃止)

平成7年度以降の実績は以下のとおりです。

・低公害車普及事業

天然ガス自動車のリース導入16台に助成を行いました。

・最新規制適合車等代替促進事業

バス59台、トラック22台、塵芥車1台の代替に対し助成を行いました。

ウ 課題と今後の取組み

大型ディーゼル車の代替は、多額の資金を必要とすることから、リースや分割払いにより導入する事業者が多いのですが、最新規制適合車等代替促進事業では、代替車をリースや分割払いにより導入する場合には、助成の対象となりません。

現実に即した制度となるよう、助成元である環境再生保全機構に柔軟な制度運用を求めているところです。

第5節 環境情報の共有と発信



1 背景

本市では、地域のコミュニティ活動や自然環境の保全活動、モノづくりの経験などを通じ、様々な環境情報が蓄積され、NPOなどのネットワーク作りも進められています。

「世界の環境首都」の創造ためには、市民、NPO、企業、学校、行政など多様な主体が、地域活動、都市の魅力、環境技術、環境製品、企業活動など多種多様な情報を共有し、そこから新たな情報や行動を生み出し、発信することが求められています。

2 これまでの取組と成果

(1) 様々な主体の情報共有・交流の基盤づくり

ア エコライフステージの開催

北九州エコライフステージでは、市民団体、事業者等が日頃からの活動をもとに「エコライフ」を提案し、環境首都づくりを進める情報交流・発信の場として、環境関連行事を実施しています。その実践活動を通して、市民、団体、企業、行政などが環境情報を共有できるためのネットワークを構築・運営し、年間を通じた環境活動の相互交流を促します。

イ わがまちの環境自慢の発掘と共有

北九州市では、様々な人や団体により様々な地域で環境活動が展開されており、また、豊かな自然にも恵まれています。「環境自慢」は、そのようなまちの「資産」(たから)や「能力」(ちから)を市民が発掘し、それを市民の誇りとして発信しPRしていくもので、平成17年度273件が認定されました。今まで一般的に知られていなかった活動が紹介されたり、認定された人からは「今後の活動の励みになる」という意見が寄せられるなどの成果がありました。

この「環境自慢」については、ホームページで紹介し、市内の図書館に冊子を配布し、市政テレビやラジオ等のマスメディアに情報を提供するなど、幅広くPRしています。

ウ 環境学習情報ネットワークの構築

環境学習・教育を実施する施設(いのちのたび博物館、環境ミュージアム、エコタウンセンター、水環境館、ほたる館、山田緑地など)並びに環境学習・教育の素材を提供できる施設(事業所、公園など)のネットワークを形成することで、効果的な情報提供を進めています。

エ エコライフプラザの設置

環境講座の開催などで市民、NPOの情報交流の場として利用されています。また、グリーン購入ネットワークの北九州情報サテライトとしての機能を持ち、館内はもとより広報誌やホームページを活用して情報を発信しています。

(2) 環境情報の収集・整備

ア 「北九州市環境配慮指針～開発事業における環境配慮の手引き～」の策定

平成18年9月を目途に策定予定の「北九州市環境配慮指針～開発事業における環境配慮の手引き～」において、「環境の現況、環境への配慮施策等の情報の収集」を行っています。

(ア) 環境情報地図の策定

開発事業者が事業実施区域周辺の環境の特性を適切に把握することを支援するため、「生活環境の保全に係る環境情報地図」、「自然環境の保全に係る環境情報地図」及び「快適環境の保全・創出に係る環境情報地図」の3種類の地図を作成しています。

(イ) 開発事業における環境保全対策のとりまとめ及び環境配慮事例の収集

開発事業の実施にあたって、環境保全について配慮を検討しておくべき環境要素や当該環境要素への影響を回避・低減するために参考となる具体的な環境保全対策について取りまとめを行っています。また、過去に市や民間事業者に、より環境保全に配慮して開発事業を実施した事例を収集しています。

イ 環境に関する年次報告書の作成と公表

毎年、環境の状況、環境の保全に関する施策等における報告書を「北九州市の環境」として作成し、公表しています。

ウ 環境局ホームページによる情報提供

環境局が取り組んでいるエコタウン事業などの主要事業や環境関連の制度に関する情報を発信しています。また、届出・申請の必要なものについては、インターネットで申請書類を簡単に取り出すことができます。

3 今後の取組

(1) 北九州エコライフネット（1万人フォーラム）の構築

1万人規模での人のつながりを目指して、インターネットを利用した日常的な環境に関する情報共有・交流を進めるため、市民主導による本格的な環境ポータルサイトの構築・稼働を目指しています。

(2) 環境測定データの速やかな情報発信

市内で実施している大気、水質などの環境測定データについては、従来、年度毎に「北九州市の環境（資料編）」としてとりまとめ、市民に配布・情報提供を行ってきましたが、平成18年8月から、これらの環境測定データの速報値を、インターネットを活用して速やかに情報発信していきます。

(3) 自然・生物に関する情報の整備

身近な生き物や希少種、移入種など生物の生息状況など、本市の自然環境の状況を把握していくため、自然環境調査の実施とそのデータベース化を目指しています。